

## 特集 「子ども一人ひとりが生き生きと学ぶ教育の推進」

—— 平成24年度「授業の達人大公開」 ——

### 思いを歌声にのせて

～合唱指導を通して～



北区 日進北小学校 教諭 宮本 江津子

#### 1 はじめに

歌うことが大好きな子どもたちを育てたい。自分の気持ちを歌にのせて表現できる子どもたちを育てたい。このような思いを抱きながら、音楽専科として子どもたちとともに歩んできた。どうしたら、自ら進んで音楽に思いをのせて演奏することができるようになるのか。仲間と話し合い、実践しながら探し求め続けてきた。「授業の達人」で公開した内容はそういう私の思いをのせた授業である。

#### 2 思いを表現するために

##### (1) 始まりは「好きであること」

「音楽の授業が好き」「音楽室へ行くのが楽しみ」という児童を育てるためには、音楽が苦手な子にも、「できない」と簡単に諦めず一生懸命取り組むように話している。苦手な子には、自分のできることを精一杯表現するように伝えている。一生懸命取り組む態度は、他の何事にも通じる心である。子どもたちの話をよく聞いて、その心を理解し、教師と子どもたちとの人間関係を作っていくことが最も大切である。時には厳しく時には優しく子どもたちと過ごす1時間を大切にしている。

##### (2) テクニックを身に付ける

音楽に思いをのせて表現するための基礎の一つは、声を出すためのテクニックをもってすることである。それを楽しく身に付けていくために、毎時間校歌を歌って発声練習をしている。声を響かせる練習、飛ばす練習、お

腹を使う練習、口の開け方、息の使い方、ブレスの仕方、発音、どんな表情がどんな声を出すことにつながるのか等、様々な要素を取り込んだ練習を校歌の中で行う。繰り返し練習を積み重ねることにより、自然にテクニックが身に付いていく。曲を表現しようと思っても、テクニックがなければ、思いを表現することはできない。重要な基礎の一つである。

##### (3) 詩を深く読み、内容を考える

歌には歌詞が付いている。一つひとつの音のつながりが生み出しているものもあるが、そこに詩が付いていて、その言葉には思いが込められている。わたしたちはその言葉を、詩の思いを表現し、それを聴いている人に伝えなければならない。この詩の伝えたい思いは何なのか、どこが一番伝えたいところなのか、どこに思いを込めて歌いたいのかということを考えながら、どのように表現していくかについて考え、歌い、聴いている人にそれが伝わったか、確かめるようにしていった。すると、子どもたちの表現が変わってきた。子どもたちは、自分の思いを歌い始めた。

#### 3 おわりに

心を一つに歌っている姿を見る時、涙が出るほど嬉しい。子どもたちの思いが伝わってくる。「歌は、あなた方の人生を豊かにするもの。音楽にはそういう力がある。」私は、音楽を愛する心を育てるために、日々情熱をもって授業に向かっている。